



写真等無断転載禁止

2023. 1. 9発行 ニュースレター第305号

〒262-0019 千葉市花見川区朝日ヶ丘 5-24-2

TEL. 090-7941-7655 FAX: 043-483-0027 代表：小西 由希子

E-mail: yatsudasukisuki@gmail.com , Home Page: <http://www.ceic.info/>

ネイチャーポジティブの時代へ 生物多様性条約 COP15 から見た世界の動き

(公財) 日本自然保護協会 国際主任 道家 哲平

学ぶ機会を作っていきたいと思っています。その中でも2つの注目点を、ここでは、ご紹介します。

1. 30by30 の合意

G7 サミットで、菅首相が国際公約していた陸域海域の30%を保護地域もしくは自然共生サイトとして保全していくことが、世界目標として合意されました(環境省

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/> 参照)。注目したいのは、COP15では「面積よりも質」に議論が集中していたことです。生物多様性上重要な場所を保護地域にすること、効果的に管理すること、先住民地域共同体の権利を尊重することなどが、面積と共に大事な目標を構成する要素として重視されています。保護地域や自然共生サイトに“しやすいところ”をきっかけに行動することの大事さは否定しませんが、「質」を大事にした、自然共生サイト設定や管理を支援する仕組みづくりを、日本自然保護協会では、地域のNGOや企業、自治体と協議しながら進めています。

2022年12月、生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)という会議が、カナダのモントリオールで開かれました。2010年に、愛知県・名古屋市で開かれたCOP10(第10回会議)で決まった世界目標の評価と、過去10年(新型コロナによる会議延期などが重なり、実質12年ですが)の教訓に基づく、新たな世界目標を決めた会合として、採択された12月19日前後には新聞やテレビでも話題となりました。国際交渉は準備会合を含め4年に及ぶものでしたが、COP15最終日の早朝(現地時間では、朝4時)



第15回締約国会議(COP15)会場の様子

に「昆明-モントリオール生物多様性世界枠組み」が決まりました。(現地からの速報として、分かりやすい解説を、日本自然保護協会ウェブサイトで紹介しています。

<https://www.nacsj.or.jp/2022/12/33437/>

この新たな世界枠組みは、実施のための資金の充実、進捗確認の方法、実施のための能力開発なども同時に見直すほか、保全活動の到達点の設定などを行っているなど、目標以外の重要な要素を決めたことから「(目標含む)枠組み」であることが大事にされています。勿論、目標それ自体も、条約に加盟する世界196か国の思いを詰め込んだものであり、日本自然保護協会では、会報やセミナー(NACS-J市民カレッジなど)の機会を活かし、会員の皆さんと



開会式で会議の重要性を強調するグテレス国連事務総長

2. 企業や金融機関からの注目

COP15は、2018年に開かれたCOP14に比べて公式登録数だけでも3倍以上の参加者があり、注目の高さがうかがえましたが、企業や金融機関に関して言

えば前回からの6倍の600名以上の方が世界中のビジネス界から参加していました。日本からも40名近くの参加があったようです。COP史上初めて「ファイナンスデー（金融の日）」が設定され、1日中、金融機関と生物多様性の観点でシンポジウムやセミナーが開かれていました。新たな世界目標では、「2030年までに、企業や金融機関が、業務、バリューチェーン、ポートフォリオにわたって生物多様性に関するリスク、依存、影響をモニタリングし、開示する」ための施策を講じることとなっています。企業による生物多様性への取り組みについて、今後劇的な変化が訪れることになるでしょう。日本自然保護協会では、COP15の前から、企業との連携を充実させてきましたが、より本格的な連携を提案して

いく予定です。



筆者とCOP15ロゴマーク

九十九里海岸のスナメリ（後編）

大網白里市 平沼 勝男

＜親子で並んで遊泳＞

おそらく親子と思います。親子で仲良く並んで泳ぐ姿をよく見かけます。ほほえましい光景で、私は好きです（写真③）。



写真③ 親子で並んで遊泳

＜背中キールに感覚器＞

スナメリは岸近くの海岸を、海岸線に沿って泳ぐ姿を見ることがあります（写真④）。しかし、砂浜



写真④ 海岸線と並行に遊泳します

で長時間スナメリを待つことはなかなか困難です。私の経験上、最もスナメリと出会える場所は片貝



写真⑤ キールにボツボツ、感覚器（矢印）

漁港です。九十九里海岸のほぼ中央にあり、防波堤が沖に突き出ている形の片貝港は、南側からも、北側からも、浜と並行に移動するスナメリがぶつかる場所です。おそらく付近には餌となる魚や甲殻類が



写真⑥ 片貝漁港上空から

豊富なのでしょう。特に秋から春にかけては群れで現れ、餌をとる光景をよく見ることができます。防

波堤の先端は浜辺から 500m以上沖に突き出た形になっているため、まるで洋上でスナメリを見ているような錯覚になります。防波堤に立つと、運が良ければスナメリを間近に見ることがあります。

最も近づいたときは、私から 5m 以内でした。水面にスナメリが現れると同時に呼吸音が聞こえます。噴気孔から息を出す音で、「プファー」とか「ファー」と短く、力強く聞こえました。そしてその時の写真が（写真⑤）です。キールの部分に無数のボ

ツボツが見えます。千葉中央博の研究者に教えてもらいましたがこれは感覚器だそうです。水族館で飼われているスナメリは、相手のキールの感覚器を嘴でつつくそうです。何らかのコミュニケーションのようです。

最後に片貝港の上空からの写真です。円で囲んだ範囲はスナメリの現れる場所を示しています（写真⑥）。結局、防波堤の外側すべてですね。

新浜の話59 ～市川南ロータリークラブ～

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

市川南ロータリークラブのメンバーのおひとりである青野博さんは、ファーマシー・アオノほか、いくつかの店舗の社長さんですが、行徳生まれ・行徳育ちの生粋の行徳原住民でした。植物等々がお好きなことから、観察舎にはオープン後間もないころから何度も来られて、よくいろいろなお話を伺っていました。

ロータリークラブでは、1年を任期として会長さんが選ばれます。1992年、青野さんが会長になられてから、メンバーの方々に呼びかけていろいろな形で観察舎の援助をしてくださりました。「卓話」として、昼食会の席上で話をさせていただいたり、メンバーの方々のお店などに募金箱を置いてくださったり。催しごとにロータリークラブが参加される時に、いっしょに発表や展示などをさせていただいたこともあります。記憶が不確かなのですが、メンバーでおられた住友銀行の方から寄贈していただいたのはいちばん最初のコピー機だったか、「大辞林」だったか。「どこそこから寄贈」という文字を入れなくては、と言いながら、忙しにかまけて入れそこねました。

「僕たちの父や兄の時代には、行徳の蓮田や干潟を埋め立てて今の街にすることが地域の夢だったわけです。でもそのために、僕たちが育った昔の行徳の面影は、どこにも見られなくなってしまった。それを再現できるとしたら、この保護区の中しかありません。子供のころの原風景を一部でも再現するために、僕はできるだけことをやりたいと思っています」

この時期がちょうどみなと池造成の時期でした。メンバーの方々は、資金援助ばかりではなく、水面から岸まで4mもの深さがある湊排水機場遊水地（どぶ池）に水車を入れるため、会社のユニックで吊りおろしてくださるとか、蓮田を再現したいということから、蓮を手に入れて植えついたり、水田の再現のために棚田の3段目を耕して、稲苗も運んで植えてくださいました。みなと池は、市川南ロータリークラブのご助力なしでは機能しませんでした。

1年間の任期を終えて青野さんが会長を退任される時、東会長と私も招かれて会合に出席させていただきました。最後の鈴を鳴らされる時の厳粛な気分を覚えています。

市川南ロータリークラブは、1997年に創立20周年を迎えるにあたって、保護区の管理作業用に真っ赤な新品のトラクターを寄贈してくださいました。その時の会長さんも、青野さんたちといっしょに蓮を植えたお仲間でした。友の会や千葉県と一体になった活動は、どの時点かはわかりませんが、世界のロータリークラブの活動の中で、優秀なものとして受賞されたように伺っています。

観察舎の活動は、いつも地元の方々のご援助に支えられていました。達夫さんが働くようになってから（この時には一樹さんがいなかったので1994年の秋のことでしょう）、台風で直径が30cmをこす大木が丸浜川沿いの道に3本も倒れて、途方に暮れたことがありました。この道は行徳高校に通う生徒さんばかりではなく、散歩道や生活道路としても利用されています。達夫さんと嘉彪がとりあえず細めの木から作業を始めているところに、「大きな木が倒れちゃったねえ。いつも散歩で通るので、お手伝いしようかと思って」と電話をくださった助っ人さん。お仲間も呼んで、道具やユニックまで持って来られて。市役所の助けを待つまでもなく、お昼ごろまでに道は開通し、みなで大喜び。

1970～1980年代の初期にも、嘉彪と意気投合した（有）ホーエイ（旧 石田農機）さんのご主人が、防寒用の作業服をくださったり、中古の草刈り機や耕運機を融通されたり（修理費をなかなか請求されないのが困ったものです）、ほんとうにいろいろとお世話になりました。

こうしたありがたいおつきあいがまだまだありました。とても書ききれません。

下大和田谷津田（猿橋地区）の 開発計画について①

NPO法人ちば環境情報センター 代表 小西 由希子

私たちの活動フィールドの一つである千葉県緑区下大和田谷津田（猿橋地区）で開発計画がもちあがりました。まだ十分な情報があるわけではありませんが、活動に参加したり支えてくださっている会員の皆様にはまずは現状をきちんとお伝えしたいと考えました。

<これまでの活動>

ご存じの通り私たちは会設立（1996年）以来ここで活動をさせていただいてきました。

ここは土地改良（暗渠による乾田化）されていないため機械も入らず、大人の太ももまで泥につかる深田です。そのため稲作は大変苦勞が多く、今でも米を作っている農家さんは一軒しかありません。

昭和40年代に土地区画整理事業が検討され事業者による買取りがありました。しかしその後様々な理由から計画は断念され、虫食いの的に買収された土地が放置され現在に至っています（農地は仮登記地になっています）。

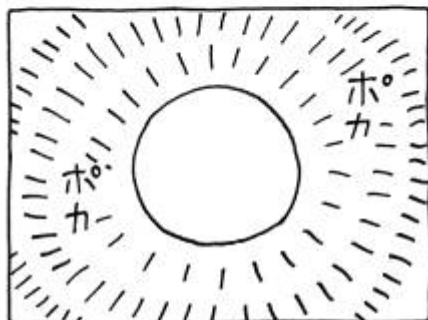
豊かな湧水が流れる土水路や田んぼにはミナミメダカやニホンアカガエルなど多様で貴重な生き物が多く生息しています。当初会員だけで行っていた自然観察会を2000年からは一般の方々にも呼び掛けて実施し、毎月欠かさず開催して2023年1月で276回目となります。さらに、生きものをはぐくむための米作り（2001年から）や森と水辺の手入れ（2004年から）もおこなってきました。2022年も幼児から年配者まで、多くの方が汗を流しています。

<開発計画が動き始めました>

そのような中、昨年1月、お借りしている仮登記地を管理している地元の事業者にご挨拶に伺った際、開発計画があることを知りました。その後、地主さんが土地を手放しているらしいとの情報を得、再度事業者を訪問させていただきました。

具体的な内容はまだお話しいただいていませんが、いずれは商業施設などの誘致などを考えているようで、将来は中野ICからの道路も繋げたいと話されていました。

そして昨年3月、市・活動団体との三者で谷津田保全協定を締結してくださっている4人の地主さんのうちの2人から、市に協定解除の申し出があり、解除されてしまいました。危惧が現実となって動きははじめました。当地区は市街化調整区域（農地や林地を守るため建物等が建てられない区域）にあるため、今後は市が事業者の開発計画内容を聞いて、開発許可を行うに当たって、都市計画審議会にはかかることになるかと聞いています（都市計画法第34条14号）。また、千葉県環境影響評価条例に基づく環境アセスメントも必要になると考えられます。（つづく） ※この開発計画に関連して2月11日にシンポジウムを開催します。詳細は谷津田だよりを参照してください。



つまあきこウェブサイト
21世紀絵コロッジ~ <http://www.21eco.net>

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2023年 2月号（第306号）の発送を 2月8日（水）10時から千葉市民活動支援センター会議室（千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階）にておこなう予定です。ただし新型コロナウイルス感染の拡大状況によっては中止する場合がありますので、お手伝いいただける方は事務局（小西 090-7941-7655）までご連絡ください。

あなたも入会しませんか キリトリセン

住所〒 _____

ふりがな 氏名 _____ Tel _____

E-mail _____ FAX _____

会費の郵便振替口座は 00130-3-369499 です。

編集後記：明けましておめでとうございます。2023年の幕開けです。新型コロナウイルスの変異株が広がり、ウクライナ戦争もいっこうに収束の気配がありません。温暖化の進行も続いています。しかし、人類は今まで幾多の困難を克服してきました。あきらめずに希望と責任を持って行動していきましょう。 mud-skipper

<小山町>

12/ 4 初霜(たんぼぼ)

12/ 8 小山の田んぼ初氷(たんぼぼ)

12/15 アオジの群れ(たんぼぼ)

12/17 水路土手穴奥に夥しい数のホトケドジョウの密集状態を発見！越冬体制？(赤シャツ親父)

【イベントのお知らせ】 主催：NPO法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655 , E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

<下大和田谷津田>

・第286回 下大和田YPP「どんど焼きと昔遊び」 ※新型コロナ感染状況により内容等が

日時：2023年 1月14日(土) 9時45分～14時 雨天中止 変更になることがあります。

場所：下大和田 わいわい広場

内容：正月飾りや、かかしをお焚き上げします。ベーゴマやけん玉などの昔あそびもします。

持ち物：お椀とお箸、長袖長ズボンの服装、帽子、ゴミ袋、飲み物、敷物。

参加費：300円(小学生以上)

・森と水辺の手入れ「田んぼの畦の整備」

日時：2023年 1月22日(日) 9時45分～12時 雨天中止

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物

参加費：無料

・第8回 森の手入れ「観察路と水路の整備」

日時：2023年 1月29日(日) 9時45分～12時 雨天中止

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物

参加費：無料

・第277回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い

日時：2023年 2月 5日(日) 9時45分～12時 雨天決行

内容：冬越しの鳥との出会いや木々の冬芽・葉痕を求めながら谷津を巡ります。

持ち物：筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴(通常の)、帽子、あれば双眼鏡、ゴミ袋

参加費：100円

<小山町谷津田>

・第211回 小山町 YPP「畦の整備2」

来期に向けた田んぼの整備を行います。今季はイノシシによる被害が大きく応援頂けると助かります。

日時：2023年1月14日(土) 11時～ ☆凍結しているため時間を遅らせます。

場所：りんどう広場

参加ご希望の方は、赤シャツ親父 (e-mail; tomizo_i@nifty.com)までご連絡下さい。

<ちば環境情報センター 共催のイベント>

・シンポジウム 古くて新しい社会システム「コモンズに学ぶ、これからの地域再生」

下大和田の開発計画をきっかけにシンポジウムを実施することになりました。

このシンポジウムは、千葉市内に残された100ヘクタールもの谷津田となだらかな丘陵のつらなる里地里山で、大きな開発計画が提案されていることをきっかけに、多くの方とともに地域の自然環境について考える機会を持つために開催いたします。全国でふるさとの山河が、過去の営みから断ち切られるかのように、地形を大きく変えられて、経済的に利用される。そのような流れがますます加速しています。かつて、集落を取り囲む起伏豊かな里山は、その地域に暮らす人々、さらには次世代も含めた「共有財産＝コモンズ」として考えられていました。

(NPO法人地球守のHP<https://chikyumori.org/2022/12/02/20221122/>より)

日時：2023年2月11日(土) 祝日 13:30～16:30

会場：千葉市文化センター 5階セミナー室

定員：100名(会場) / 500名(オンライン)

参加費：2,000円(会場参加)、1,000円(オンライン参加)

参加・申込方法：peatixからお申し込み下さい。→ <https://commons-symposium.peatix.com>

